

令和5年度 早熟かぼちゃの収穫、出荷に向けて

【気象概況】

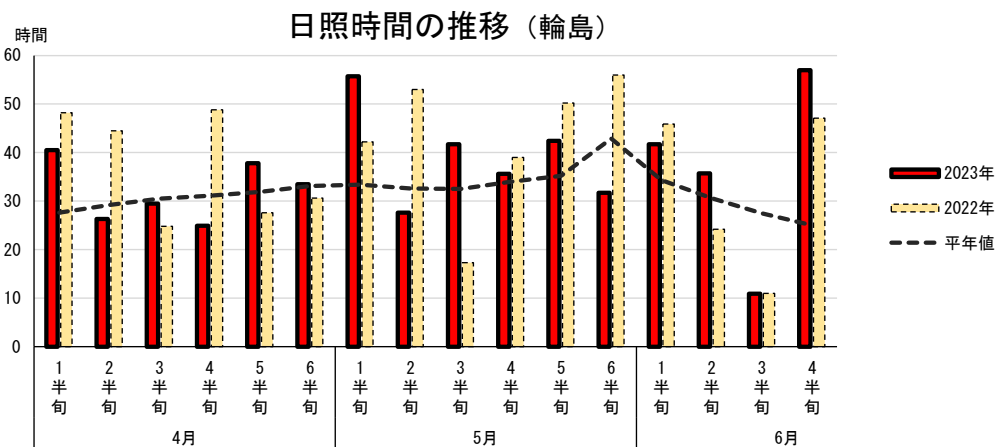
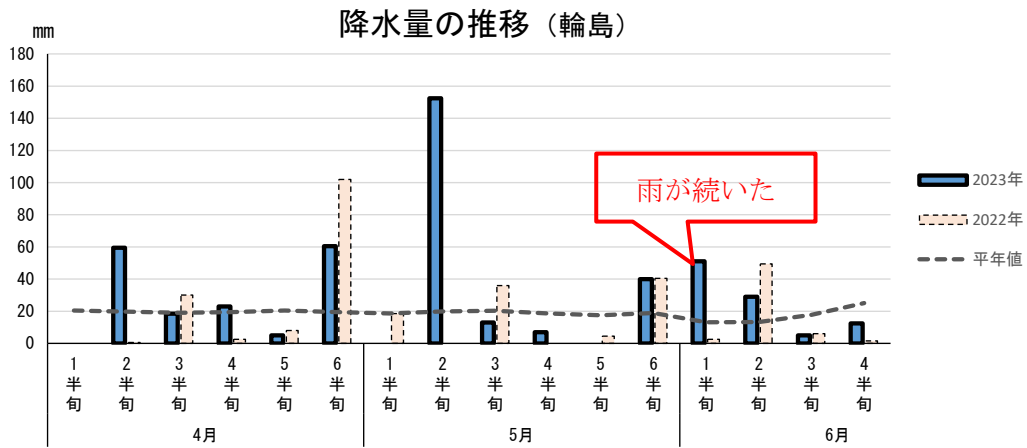
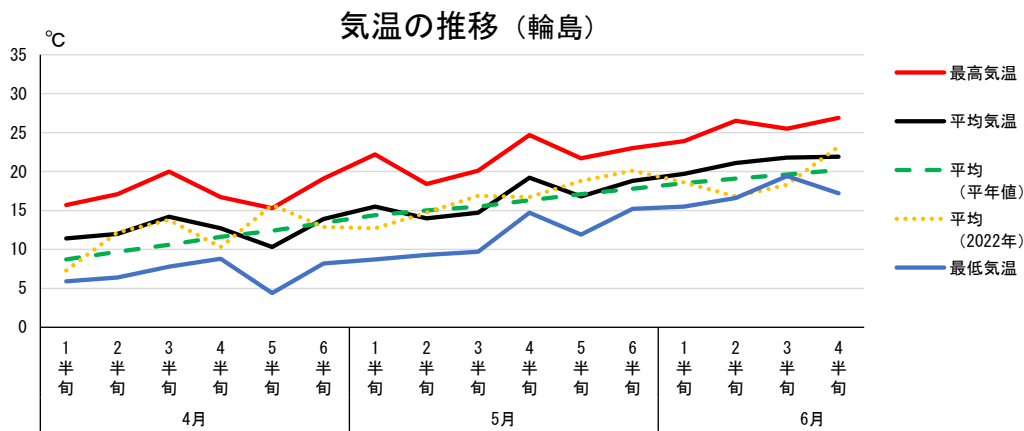
1か月予報(6月23日発表) 気温:高い、降水量:平年並みか高い、日照:平年並みか低い見込み

1. 気温

4月は晴れた日が多く高温で推移したが、中下旬に最低気温が低くなる日もあった。
 5月は中旬に一時的に高温になったが、期間を通しては平年並みか低めで推移した。
 6月中旬以降は晴れが続き、平年よりも気温が高く推移した。

2. 降水量

5月上旬、5月下旬～6月上旬にかけて降雨が続いたが、6月中旬以降は、平年より降雨が少なかった。



【生育概況】

1. 生育・着果等

4月中旬植えのビニールトンネル作型では穴あけ後に霜害による葉焼けや枯死等が散見された。一方で不織布(アイホッカ)トンネルでは、霜害、高温等による被害は見られなかった。

例年に比べて着果数が少ないほ場が見られた。原因として①4月中旬～5月上旬にかけての低温で着果期の雄花の数が不足したり、花粉が不十分だった。②5月末から6月初旬に断続的な降雨で訪花昆虫の活動が制限された等が考えられる。

2番果を収穫する場合も、需要の高い盆前出荷に間に合うようにする。(収穫の目安は6月20日までに着果したもの。)

2. 病害虫

5月よりウリハムシの活動が見られた。また、株元の葉から褐斑細菌病やうどんこ病が発生しているほ場が見られた。

3. 収穫期

雌花の開花期と収穫目安

| 雌花 開花期 | 収穫目安日 | | | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | 開花からの積算気温が900～950℃に到達した日 | | | | | |
| | ※令和5年 | 令和4年 | 令和3年 | 令和2年 | 令和元年 | 平均(過去10力年) |
| 6月1日 | 7/12～7/14 | 7/10～7/12 | 7/12～7/14 | 7/11～7/14 | 7/13～7/16 | 7/13～7/15 |
| 6月5日 | 7/15～7/17 | 7/13～7/15 | 7/15～7/17 | 7/15～7/18 | 7/17～7/19 | 7/16～7/18 |
| 6月10日 | 7/19～7/21 | 7/16～7/18 | 7/19～7/21 | 7/20～7/22 | 7/21～7/23 | 7/20～7/22 |
| 6月15日 | 7/24～7/25 | 7/20～7/22 | 7/23～7/25 | 7/25～7/27 | 7/25～7/26 | 7/24～7/25 |
| 6月20日 | 7/28～7/30 | 7/24～7/26 | 7/27～7/29 | 7/29～7/31 | 7/28～7/30 | 7/27～7/29 |
| 6月25日 | 8/1～8/3 | 7/29～7/31 | 7/31～8/1 | 8/2～8/4 | 8/1～8/2 | 7/31～8/2 |

注) 輪島の日平均気温を積算した。

令和5年は6月25日までは実測値、21日以降は平年値を積算した。

完熟期：積算気温が950℃に到達した日

6月頭に着果した果実は、7/12(過去平均より1日ほど早い)の週から収穫適期に入ると考えられる。

へたの色、試し切り時の果肉色等を観察し、収穫適期を判断する。

【果実成熟期の管理】

一時的な大雨による湿害、晴天日の日焼け果発生、病害蔓延による枯れ上がりに注意する。

1. 果実の日よけ

日よけが終わっていない場合は果実の肥大、着色が良いものから優先的に実施する。

予報では6月末から雨が続く。曇雨天続きで根が弱ると葉が萎れ、少しの晴れ間でも日焼け果が発生するので注意する。

2. 病害防除

長雨により発生、拡大しやすい状況にあり、特に着果が遅れたほ場では、うどんこ病を中心とした防除をしっかりと行う。また、疫病やつる枯病は果実にも感染することがあり、特につる枯病に感染した果実は貯蔵中に腐敗する場合があるので、防除を行う(着果20日後頃と30日後頃の防除が効果的)。

登録薬剤(抜粋)

| 対象病害 | 農薬名 | 作用機構 分類コード | 倍率 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用回数 |
|------------------|--------------|---------------|-------------|-----------------|------|
| うどんこ病、 疫病、白斑病 | ベフドー水和剤※1 | M07,M01 | 500 倍 | 7日前まで | 4回以内 |
| うどんこ病 | ジーファイン水和剤※1 | M01 | 750~1000 倍 | 前日まで | — |
| | ショウチノスケフロアブル | U13,9 | 2000 倍 | 前日まで | 2回以内 |
| | シグナムWDG※2 | 11,7 | 1500~2000 倍 | 前日まで | 3回以内 |
| | トリフミン水和剤 | 3 | 3000~5000 倍 | 前日まで | 5回以内 |
| べと病、白斑病 うどんこ病 | ダコニール 1000※3 | M05 | 1000 倍 | 7日前まで | 3回以内 |

※1 ベフドー水和剤、ジーファイン水和剤は銅が含まれており、気温26℃以上で、長時間薬液が乾かないままだと薬害を生じやすい。薬害軽減のためにクレフノン水和剤(100~200倍)を混用する。

※2 シグナムWDGは薬害防止のため、浸透性を高める展着剤「アプローチB I」「ニーズ」等とは混用しない。シグナムWDGはかぼちゃではうどんこ病のみの登録だが、すいかではつる枯病に登録あり。

※3 すいか、メロンなどでつる枯病に登録あり。

3. 排水対策

- ・突発的な大雨に備え、排水溝が埋まっていないか再度点検しておく。
- ・部分的に排水が悪い圃場では、果実周辺に雨水が溜まらないように、簡易な溝を設置する。
- ・長時間浸水すると、果実が腐敗したり表面にイボが発生したりするので注意する。

【収穫適期の判断】

◎必ずほ場ごとに試し切りを行い、収穫適期を正しく判断する。

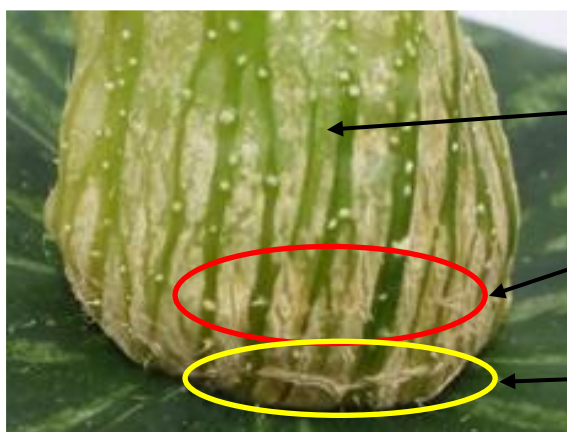
着果時期が推定できる場合は、雌花の開花期と収穫目安(表:P2)も参考にする。

成熟期は草勢が弱いと早まりやすく、強いと遅れやすい傾向。

◎ヘタの外観と試し切りした果実内部を比べ、外観と実際の成熟度合いのズレを把握する。

1. ヘタの外観から見た完熟果の判断(目安)

コルク状のスジの中に縦ひびがいくつも入り、ヘタの付け根に横のひび割れが確認できたら、完熟期に入った目安となる。



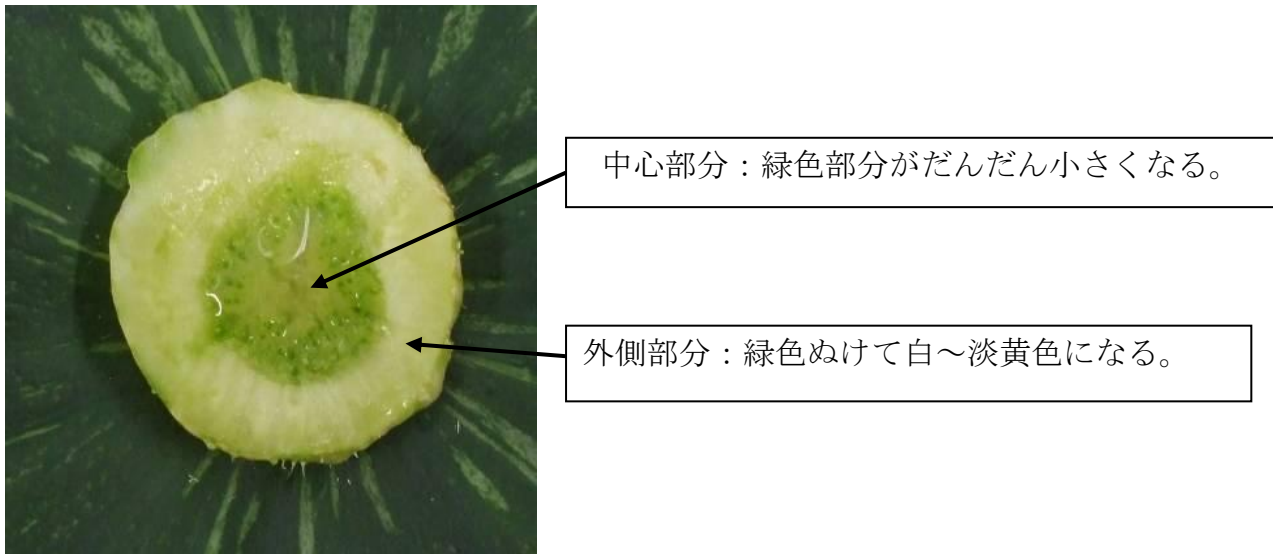
緑色が淡くなる。
(草勢が強い場合は、遅れる)

コルク状のスジの中に縦ひびがいくつも入っている。

明確な横ひびが入っている。

2. ヘタの切断面から見た完熟果の判断(目安)

切断面を観察し、淡い緑色の部分(内側の円)が中央付近に向かって小さくなってきていたら、完熟期に入った目安となる。



ヘタの切断面(完熟果)

(窒素過多で草勢が強い場合は、このように明瞭とはならないので、注意する。)

【収穫時の注意事項】

1. 着果時期に応じ、複数回に分けて収穫

つるが繁茂し節位が分かりにくいので、ヘタの外観を確認して収穫する。

2. 果実表面が乾いている時に収穫

果実腐敗を防ぐため、降雨中、降雨直後で果実表面が濡れている時の収穫は避ける。

※風乾に時間がかかり、かびや腐敗果の原因となる

3. 降雨によりぬかるんだほ場では、ヘタを長めに切って収穫

果実表面の泥を落としてから、出荷に適した長さに切り直して納屋に搬入する。

※ヘタの切り口から雑菌が入って腐敗することがあるため

【個人風乾時の注意事項】

1. 風乾は、通気の良い場所で少なくとも7日以上行う(理想は10日以上)

風乾中は扇風機を稼働させ、空気が停滞しないよう換気や通気をしっかり行う。

十分に風乾しておかないと、出荷後に腐敗しクレームの対象となる。

2. 積み上げ段数は3段以下に、腐敗果は見つけ次第、処分する。

高く積み上げるほど通気性は悪化し、腐敗果が発生しやすくなる。また、腐敗果の発見もしにくくなるため、腐敗果がさらに増える。

段数が増える場合は、風乾期間中に下段と上段を積み替えて、乾燥ムラの是正と共に、腐敗果の早期発見に努める。

【腐敗果、つる枯病について】

1. 腐敗果

令和元年産の能登かぼちゃ(早熟作型)で発生した腐敗果(疫病?)

腐敗果の発生防止のためには、前述の病害防除や排水対策、収穫時・風乾時の注意事項が重要



2. つる枯病(腐敗果の原因のひとつ)

つる枯病はウリ科作物で発生する病害で糸状菌が原因。かぼちゃではつるの症状はあまり見られず、果実での被害が多い。生育途中で落果したものや日焼け果、傷を受けた果実で発生しやすく、収穫後～貯蔵中に発生することが多い。葉に疑わしい病斑がないか、注意して予防防除を行う。



かぼちゃ葉での発病の様子(開花期ごろ)
(タキイ最前線 Web ホームページより)



貯蔵中のつる枯病 発病初期
(タキイ最前線 Web ホームページより)



貯蔵中のつる枯病 病斑拡大
(タキイ最前線 Web ホームページより)